

## ロスキレ市補助器具センター訪問

Roskilde Kommunes Hjælpemiddelafsnittet

P.I.C. Ms. Pia Munk Lundgren  
主任 Ms. Hanne Birk Jespersen  
レポート：多田 聡

### ★ロスキレ市での支援受け入れ手順

補助器具センターでは、まずロスキレ市の福祉部長リーダーであるピア・モンクロンベックさんのお話を聞きました。ロスキレ市ではリハビリを重視していて、リハビリの効果が国内で一番です。

受け入れについて、図を示しながら説明していただきました。まず市民から申し入れがあると18名の判定員により対応が検討されます。介護住宅、トレーニング、リハビリなどの選択があります。例えば、在宅にするという判定が出た場合は、8週間コンタクトを取り自宅で生活できるような支援を行います。基本的な考え方としては、自分で生活するというのを考えて、トレーニング→補助具→看護という順序で対応することになっています。

### ★補助器具センター概要

この補助器具センターには、18名の作業療法士(OT)、5名の事務職員、6名の倉庫管理者がいます。

作業療法士が扱うケースとしては、子ども、大人、ホーム入居者などを対象に、クイックサービス、リハビリ(自助の援助)を扱います。申請から3日以内に対処されます。

### ★経営状況

人件費 1200万クローネ

リサイクル費 860万クローネ

83000人の市民に4200万クローネを使っています。

### ★現状

- ・早いうちに対応されるのが特徴です。



- ・年々、申請が増えています。
- ・補助器具はリサイクルが基本。かなりの部分がリサイクルで賄われています。
- ・配達方法としては、ロスキレ市の車で配達することが増えています。また、緊急配達が増えています。
- ・これからはロボットテクノロジーが使われていくだろう、という話もありました。必要とする人が多くなっている反面、この職を希望する人が少ない理由からも、ロボットの活用が増えています。

### ★保管庫見学へ

各種の補助器具や保管庫を見学、介護用のリフトなどの体験をしました。

- ・自分で靴下がはける補助具

靴下をはかせてもらうのではなく、まずは自分ではなくという意識が共有されているように思いました。補助器具を貸し出すことで特別な支援をしているのですが、「人が身も心も人として生きる」という考え方については特別扱いしない、という感じです。

### ★感想

日本での詳しい状況は分からないのですが、デンマークの支給方法は我が国とは異なっていて、公の施設ですべてを賄っているので対応が迅速で無駄がないようでした。